

第1回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要旨

日時：平成27年5月23日（土） 13：00～16：00

場所：日野市役所 505会議室

出席委員：

亀山委員	東京農工大学名誉教授 ※委員長
小倉委員	東京農工大学名誉教授
鶴田委員	
濱田委員	
田村委員	
井上委員	
森川委員	
土屋委員	中央大学
大橋委員	中央大学
岩崎委員	東京農工大学
篠田委員	東京農工大学
坂本委員	多摩動物公園 副園長
成澤委員	環境保全課
高見委員	環境保全課
高荒委員	環境保全課
石黒委員	環境保全課
藤田委員	環境保全課
高木委員	緑と清流課
新井委員	緑と清流課
安部委員	ごみゼロ推進課
山本委員	都市計画課
岡澤委員	区画整理課
金子委員	産業振興課
小島委員	健康課
奥野委員	庶務課
清水委員	学校課
加藤委員	生涯学習課

※敬称略

議事：

- 1.生物多様性地域戦略について
- 2.生物多様性基礎調査について
- 3.日野市の特徴・課題について

配布資料：

- 資料１：「地域戦略策定の基本的考え方、方向性」
- 資料２：策定までのスケジュール
- 資料３：生物多様性基礎調査について
- 資料４：日野市の特徴・課題について
- 参考写真：フィールド調査地と春季調査の主な確認種

1.生物多様性地域戦略について

○事務局（久保田） 市長の話にもあった通り、「水と緑」は日野市の財産。今ある自然は今まで市民が地道に活動してきた結果であり、市も全国に先駆けて環境自治体として取り組んできた。一方、都市化の波が日野市にも訪れ、貴重な自然が年々失われている。次の世代にこの豊かな自然を残すことが私たちの使命。皆様の想いを、想いで留めずにそれを政策にし、市民一人ひとりの行動に移していく。そのための戦略になればと考えている。

※事務局より、資料１、２ に基づき説明。

○事務局（中島） 次の会議が来年の２月か３月となっているが、これは事務局とコンサルタントとの契約でのスケジュールリングの話。委員会ではこの間にも議論をしていただきたいと考えている。今年は日野市の事をどうやって広く知っていただくかについてご意見を伺いたい。事務局としては水と緑が日野市の財産だと考えており、テーマは「水」と「緑」で進めたい。それら２つの分科会を作って、その中で議論ができればと考えている。

2.生物多様性基礎調査について

※事務局より、資料３に基づき説明。

○森川委員 調査実施箇所について、それ以外の場所は実施しないのか？緑の一番多い多摩丘陵が調査箇所に入っていない。また、多摩川は点で調査するのか、面で調査するのか。

○事務局（彦坂） 多摩動物園の周辺は悩んだが外している。既に良い環境だけを調査するのではなく、課題のある場所や、これからより良くできる場所を検討している。

○森川委員 良い場所を調査するのが普通ではないのか？

○事務局（彦坂） 良い場所は真堂が谷戸と倉沢地区で考えている

○森川委員 増やすことはできないのか？多摩川はしっかり調査できないのか？

○事務局（彦坂） 多摩川は「河川水辺の国勢調査（水国）」が実施されている。

○森川委員 水国は5年に1度。今と結果が変わっているのでは？

○事務局（高見） 予算の都合もあり、わかる部分は文献調査で補う。3ヶ年事業であるので、今後調査箇所を増やすかどうかは市民の意見を伺いながら考えたい。

○井上委員 日野市内に哺乳類は10種類いるが、それらを把握できる場所に調査箇所が含まれていない。多摩丘陵はノウサギが減っており、これは近々に調べないといけない課題。地元には詳しい人がいるので、調査箇所は地元の意見や情報を持ち寄って検討したほうがよい。また、農工大ではトラップをかけてネズミの調査をしている。

○事務局（中島） 今回示した調査箇所は、限られた予算の中で悩んで検討した結果。詳しい人がデータを持っている場合は、ぜひそのデータを提供していただきたい。その上でどうしてもデータの欠ける場所があれば、調査が必要か検討したい。

日野市内の全てのデータを皆様から頂けるとは考えていないが、この委員会でできたネットワークを使って得られた貴重な情報は、戦略に活かしたいと考えているので、ぜひご協力を願いたい。

○亀山委員長 資料2は日野市から地域環境計画に発注された業務のスケジュールですか？

○事務局（増澤） はい

○亀山委員長 このスケジュールでは委員会の合意は得られない。スケジュールの前に、まずは現地に詳しい皆様に、どのような調査方法が適しているのか伺った方がよい。春の調査は今年度できなければ、来年度に実施すれば一年の調査データは補える。委員会の意見を聞かずに調査内容を決められては、委員会は何のために集まっているかわからない。計画を練り直すつもりで、どういった調査が必要かを委員会に伺い、6月上旬にどのような調査をするか説明したほうが良いのでは？その上で皆様の合意をいただいて、調査を実施することはできないか。業務契約をしてしまってからでは変えられないですか？

○森川委員 調査は誰が実施するのか？

○事務局（高見） 事前に説明させていただいたが、調査はコンサルタントが行う。委員会の皆様も調査に参加していただくかどうかは、今日ご意見をいただけたらと考えていた。

○井上委員 調査は目視だけか？静止画か動画で、市民に報告できるかたちで残したい。レベルの高い調査をお願いしたい。

○事務局（彦坂） 見つけられたものは可能な限り写真に収める努力をしている。常日頃から自然環境調査を行っているので、配慮は行っている。

○亀山委員長 資料3は調査計画や方法がきちんと記されていない。もっと厳密に書いたもので議論をしていかなければいけない。

○井上委員 市民や小学生に、目視、鳴き声、フィールドサインだけでは調査の説明ができない。任意調査で本当に良いのか？

○亀山委員長 もう一度調査計画を作り直して、近々に出してもらえないか？資料 2 のスケジュールでは、今年度は何もしないと書いてあるのと同じ。会議としてこの一年をどうするかをしっかりと詰めて考えたスケジュール案、調査計画を出していただいて、委員会に意見を伺う方法でやりませんか？

○田村委員 市の進め方と、委員会の進め方で意識の差がある。専門の企業の方と、自然に詳しい市民の情報を持ち寄って、文献調査の内容、方法、精度を整理して、進め方をすり合わせたほうが、価値のあるものに繋がるのではないか。

○亀山委員長 まずは文献資料からわかっていることを整理する。それを踏まえて調査方法の説明に入ったほうが、意見を出しやすい。

○井上委員 調査方法は、改めていろんな人の意見を伺いながら決めたい。多様性という言葉と調査方法が一致しない。20 年、30 年と残る良いものをつくりたい。

○事務局（増澤） 調査の方法、場所については皆様の意見があるようですので、もう一度意見を伺い、話をする場を作りたい。次の場では、どのような調査を今年度実施するかを決めさせていただく。

○亀山委員長 今日委員会から出された意見が反映されるということか？

○事務局（増澤） はい、まずはどんな調査を行うか素案をつくります。

○亀山委員長 既存資料の概略をまとめた上で、今年度はどんな調査をするか。ということですね？

○事務局（増澤） あらかじめ、専門の方にご意見を聞いたうえで、素案を作成する。それを見ていただいて、次の会議では手法の合意を得られたらと考える。

○亀山委員長 その方がいいです。できれば 6 月の早いうちにやった方がいいと思います。日程の調整はどうしますか？委員も揃っているので、今日決めては？

○事務局（高見） 職員、会議室の都合もあるので、近日中に事務局から皆様のご予定を確認させていただく。

○坂本委員 委託の仕様書を確認している。調査箇所が 7 カ所という数は決まっているので、そのフレームを活かした方法が良いのでは？市の仕様も意識した上で、話し合いを進めた方が良いのでは？

○亀山委員長 仕様を変更しては？契約内容に関しては市にお任せする。

○事務局（高見） 予算の事情もあるので、契約に関してはコンサルタントと相談をして進める。

○亀山委員長 今年度のスケジュールですが、会議の数を増やせるかどうかは次の会議でお示ください。

○事務局（増澤） そのようにします。

○亀山委員長 今年の会議がもう無いのはあまりにももったいない。会議の場を増やすことに問題はないですか？

○事務局（高見） 問題ありません。

○亀山委員長 それではぜひご用意いただいて、この一年を有効に使いたい。生物多様性地域戦略は決まった形がないので、住民運動のように深く関心を持ってもらえるような方針を、どう組み立てるかに意味がある。今のままだと調査会社が調査した内容でしかないので、市民に浸透しないかもしれない。市民にどうやって浸透させるかのほうが大事なことである。

○事務局（中島） 市民に伝えるためにやりたいことを、私たちも話したいと考えていた。市民の目から見た環境調査として、アプリの開発、身近ないきもの調査隊を考えている。そのようなことも、みなさんには議論していただきたい。

私の考える目的としては、生きもの調査をメインにするのではなく、日野市に住んでいる人が普通に生きものと付き合えるような、普通に子供たちが水路や野原で生きものと関わられるための戦略を作りたい。特別なものを残すために頑張るのではなくて、身近な生きものと仲良く暮らしていくための環境を守る活動に繋げていきたい。そのためには若い皆様からも自由な意見をいただいて、どんな環境がいきものにとって暮らしやすいのか、いろんな方向からご意見を伺いたい。

○亀山委員長 そのようなことを考えるためにこの一年を使えば。その話をするための、たたき台はしっかり用意していただいてから議論がしたい。

○事務局（増澤） はい

○亀山委員長 では、（今後の流れは）そのように軌道修正をさせていただきます。

3.日野市の特徴・課題について

※議事無し

その他

○亀山委員長 まず1回目なので、地域戦略に対する各々の思いを伺いたい。

○井上委員 既にある日野市の生きものガイドブックは古く、数も少なく学校で活用できていない。地域戦略が学校で活用できる資料になれば、市民にとってよいのでは。

○田村委員 大事に考えることが2つある。①様々な生きものの恩恵を受けて人が生きていることを知る。②日野市の環境に関わる知識を次の世代に伝えていく。そのための関心を引くものになれば。

○鶴田委員 用水は環境が良ければ、生きものが勝手に増えてくる。逆に悪くなると一気に減る。最近は大雨の対策で用水の水を絞り、生きものの数が減っている。治水対策を踏まえて、どのような環境に良い用水が作れるかをみなさんと考えたい。

○亀山委員長 用水の水量を抑えたことがわかる資料が必要。

○濱田委員 古すぎる資料は参考にならない。委員の方が持っている資料は可能な限り供出してほしい。一方的な自然保護に偏るのは危険。地域戦略は環境保護と同時に、我々がその恩恵を長く享受することが目的。調査で見つかったカザグルマ、エビネは園芸種では

ないか？移入されたものと考えたら良いが、自生と考えるなら確認が必要。鳥獣害・外来種関連の問題も気になる。

○森川委員 日野市は恵まれた環境にある。多摩川、浅川があり、なおかつ多摩丘陵がある。昆虫で見た場合、丘陵と河川敷では種が異なる。河川敷にしかない種がある。国交省は環境を復元する事業で多摩川浅川合流点の林を伐採し、結果として外来種が繁茂してしまった。名目と現実が異なっている。多摩丘陵の自然も30年前の状態からかなり減っている。自然を残すことを考えていきたい。

○亀山委員長 この地域戦略で様々なステークホルダーに対して意見を言うための仕組みを作ることも重要。

○岩崎委員 外来種の除去について中型食肉目の場合は、「かわいそう」という市民の感情から難しい面がある。そういった課題を解決する内容もほしい。外来種の問題解決にはコストの問題もあるが、そのコストを理解いただけるような内容も盛り込みたい。

○大橋委員 生物多様性についてあまり知らないが、若い人などにも広めていけるように協力していきたい。

○篠田委員 様々な地域戦略を見ていると、減っていく希少種や固有種を守っていく方法と、身近な自然を再認識してふれあいを増やす方法がある。事務局案は、身近な自然を対象としている事が説明と資料から伺えた。しかし、市民（委員のメンバー）は希少な生きものや、昔の環境を残すことに主眼を置いているので、そこは改めて話し合った方が良いのでは。

○土屋委員 あまり、（生物多様性に関する）専門知識はないのでこれから資料を読み込むなどして勉強したうえで、協力していきたい。

○坂本委員 足元の自然に目を向けることはすごく大切。希少種でなくても、子供たちは身近な生きものを知れることがうれしい。その嬉しさを子供が親に伝えるようなことができれば。ヒキガエルの交雑が一部で問題となっている。飼っているカエルを外部に放すことで、自生種と交雑する。交雑個体はまだ確認されていないので、これから啓発していくことで問題に対して未然に対処できるのではないかな。

以上